

# vivo

水戸芸術館音楽紙 [ ヴィーヴォ ]

7&8 JULY/AUGUST 2002

## CONTENTS

グローブ座の音楽家たち	.....1~2
プロムナード・コンサート	.....2
Portrait/パブロQ&加藤直子	.....3
最近の公演から	.....4
ネットマ& Petite 情報	.....5
インフォメーション	.....6



グローブ座の音楽家たち



## まさに『真夏の夜の夢』 ACM劇場がグローブ座に！ 7/12 (金)グローブ座の音楽家たち シェイクスピアの音楽

この原稿を書いている6月上旬現在、梅雨を飛び越えて夏に突入しそうな暑さがつづいています。新しいvivoが皆様に届く頃はどんな天気なのでしょう。梅雨真っ盛りか、ゆで上がるような暑さか。W杯の熱狂が終わってしまうと、倦怠感に拍車がかかりそうですね。

いずれにせよ身体も心も、なにかさわやかな変化がほしくなる時期。身体がむしように冷たい麺類を食べたくるように、耳と心の方も、いつものクラシックとは違う新鮮な響きがほしくなってきましたか。そんな方にピッタリの演奏会をひとつご用意しました「グローブ座の音楽家たち」。「シェイクスピアの音楽」とはなんぞや...なんて大上段に振りかぶると暑さが倍加しそうですね、ひとつ、シェイクスピア大先生には失礼ながら、この演奏会、W杯記念(?)韓国に敬意を表して、筆者も大好きな冷麺にたとえて紹介させていただきます。

スープの味は保証つき! なんといってもシェイクスピア

冷たい麺類は、まずベースとなるスープ(演奏される音楽)がおいしくなくちゃあ話になりません。今回「ダシ」となるのは、16世紀英国の偉大な劇作家、ウィリアム・シェイクスピア。『ハムレット』『リア王』『マクベス』『真夏の夜の夢』...説明不要の名戯曲の数々は、古今東西のあらゆる演劇人たちの心をとらえ、次々と新しい解釈をほどこさねつつ今なお不朽の古典として色褪せることあり

ません。さらにそれらはオペラや標題音楽の題材となり(ヴェルディ、ベルリオーズ、チャイコフスキ、プロコフィエフ、ブリテン等々...)、映画の題材としてもくりかえし取り上げられています。この10年を見ても、ケネス・ブラナー演出の古典的なコスチューム・プレイから、ハリウッド版のパンクな『ロミオとジュリエット』、恐ろしげな『タイタス』からめ手て迫ってアカデミー賞を受賞した『恋に落ちたシェイクスピア』まで、枚挙に暇がありません。いかにシェイクスピアが古典であると同時に「現役」であることが...

しかし、シェイクスピア自身音楽にも造詣が深く、その戯曲が音楽と密接な関係にあることは、あまり知られていません。彼の戯曲が当時舞台にかかるとき、いったいどんな音楽がその名セリフの数々を彩ったのか。「グローブ座の音楽家たち」のリーダーである博覧強記のフィリップ・ピケット氏の解説を全文ご紹介しましょう(招聘元、アレグロ・ミュージックからのプレス資料より)。

シェイクスピアの戯曲に出てくる歌の場面で、もとの姿が残っているものはごく少数しかない。これらの歌にはもちろん、ああ、いとしい君(十二夜)、5巻の深い海底に(テンペスト)、哀れなその子は泣きながら(オセロー、デズデモーナの柳の歌)、彼氏と彼女が(お気に召すまま)など、有名な歌もある。私たちはこれらの歌とほかの6つの歌がシェイクスピアのどの戯曲の中のどこに出てくるかをよく知っており、シェイクスピア

の時代にそれぞれの歌につけられた曲が残っている。しかしほとんどの詩は詩が先にあって曲が新たにつけられたのではなく、1600年ごろによく知られていたバラッドのメロディに合わせて書かれたのである。エリザベス=ジェームズ1世時代の印刷または手書きのコレクションに残っている何百という舞曲と器楽曲のうち、どの曲がもともと戯曲の中にあっただかはよくわからないが、おそらく私たちが知っている数よりずっと多いだろう。

エリザベス=ジェームズ1世時代には戯曲の演出で、音楽は歌詞だけから想像できる以上に重要な役割を与えられていたことは間違いない。素読みのときは台本中の歌と踊りの指定はつい見落とし勝ちであり、アクション中に明示的または暗示的に奏される付随音楽とはまったく別に、音楽家のコンソートが芝居の前や後や幕間に天井桟敷で演奏する習慣があった。このプログラムではシェイクスピアの戯曲中の歌が当時のままの曲に乗って演奏され、そのほかに、設立当初のグローブ座で上演中に観客が耳にしたであろう色とりどりのポピュラーな器楽曲が奏でられる。

うん、ピケット先生大まじめに語られていますが、要は「シェイクスピア劇のオリジナル・サウンドトラック復元版をお聴かせします」ってことですね! この時代のイギリスは音楽上でも最高の黄金時代を謳歌しており、バードやギボンズらが壮麗な教会音楽を書く一方でダウンドやモーリーらがキャッチーなヒット・ソングを連発するといった具合。ま

写真左;ジョン・バランジャー  
中央;フィリップ・ピケット  
右;グローブ座の音楽家たち



あ乱暴な言い方をするならウィーン古典派と60年代後半のプリティッシュ・ロック黄金期がいつべんに来たような状態なわけです。今回演奏されるのは主にヒット・ソング、および当時のダンス・ミュージックの方。さっぱり口当たりのいい名旋律がいっぱい、でもあと口は余韻たっぷり。塩分も脂肪分も控えめ、化学調味料無添加、ひと口も残さず飲みほしていただけるスープです。

歯ごたえよし、喉ごしよしの麺！ 音楽家たち  
さて、せっかくスープがおいしくても、麺がのびていたり固すぎたりでは冷麺を名乗る資格なし！（なぜか冷静ではない）その点、今回の麺（演奏者たち）はパーフェクト。かつてニュー・ロンドン・コンサートでカルミナ・ブラーナやブランデンブルク協奏曲のフレッシュな名盤を生み出したフィリップ・ピケット、持ち前の学識に想像力のスパイスを効かせ、シェイクスピア・ミュージックを鮮やかに再生します。リコーダーやリュート、ヴァイオリンに、シターン、バンドーラといった消え去った弦楽器まで復元して加えたそのサウンド（こうしたいろんな楽器が混ざった合奏のことを当時「ブロークン・コンサート」と言いました）は、古典派以降の室内楽とはまったく違うにぎやかさ。そして古い時代の楽器特有の、ほのかな樹木の香りがします。さらにピケットはトラッド・ミュージックやロック畑でも活躍するマルチ・ミュージシャン（『アルケミスト』というクロスオーバー・アルバムも出ています）。一流の英国古楽奏者たちを集めて、即興もたっぷり盛り込んだ「16世紀版ジャム・セッション」をくり広げてくれることでしょう。その上を吹き渡る涼やかな一陣の風は、ジョアン・ランの歌声。彼らが英国の名家グローブ座の座付き楽団であるのもむべなるかな。歯ごたえも喉ごしも、痛快この上ない麺です！

カラフルなトッピング 観て楽しい、道化のパフォーマンス  
スープも麺も揃ったけれど、トッピングが充実してなくちゃ、冷麺も画龍点睛を欠くというもの。味のないプレスラムや辛いだけのキムチだったりすると、「なんじゃこりゃあ！」と叫びたくありませんか（ならないか...）。その点、今回鮮やかな色彩と味わいを加えてくれるのが道化のジョン・バランジャー。権謀術策に右往左往する権力者たちのそばで、辛辣で毒に満ちたセリフをつぶやき人生の真実を鋭くつく道化は、シェイクスピア劇になくてはならない存在。英国の主要な劇団やロイヤル・オ

ペラ・ハウスで活躍し、自らもエリザベス=ジェームズ王朝期の伝統的な演劇を再生する「フルズ・パラダイス(患者の楽園!)・シアター・カンパニー」を結成する超一流の俳優・パフォーマーが、この演奏会にどうからむのか。ふたたび、ピケット氏にご登場願ひ、道化についてのコメントを全文紹介します。

「グローブ座の音楽家たち」によるシェイクスピアの音楽は、曲芸師で道化のジョン(・バランジャー)との共同作業である。ジョンは持ち前のルネサンス・ブランドのウィット、ジャグリングの妙技、ヴィジュアル・コメディで、そしてもちろん仮面と衣装で聴衆を楽しませるが、それだけでなく、シェイクスピアの道化 タッチストーン、フェスティ、リア王の道化 の多様なキャラクターに、そしておなじみの派手なドタバタ芝居 一人の道化が同時に二つの宮廷に仕え...居酒屋で顔を合わせ、飲みっぷりを競い、拳句に喧嘩の大立ち回りに至るをよみがえらせる。

シェイクスピア時代の道化の衣装を復元して身にまとう(染料や染め付け技術までこだわったという!)バランジャー氏、「ワイルド・ウェスト・ショウもびっくりのナイフ投げもある」ピケットからリコーダーを奪ってジャグリングした上、鼻で吹く」等の怪演が噂されています。さらに開演前から客席内

をうろろし、無防備にやってきたあなたを挑発します。そんなわけで、金曜日のコンサートではありませんが、できるだけ早めにおいでくださるとさらに楽しいですよ!(開場時間を18:30、開演時間を19:00に設定しました! 20:45頃には終わる予定です)

そんなわけで、スープ・麺・トッピングと3拍子そろったシェイクスピア冷麺(あーあ、言っちゃった!)味わう器は本場グローブ座をモデルにしたACM劇場。いつもの暖色系のコンサートホールとは違うクールなトーンが、涼味を一段と冴え渡らせてくれることでしょう。そして最後にはバランジャー氏が登場し、「人生はしよせん、道化芝居なのさ」と『マクベス』からのセリフをつぶやく...ほんのわずかに加えられた苦味が、この夢のような一夜をいっそう忘れたいものとしてくれることでしょう。(矢沢)

#### 【グローブ座の音楽家たち CDご紹介】

『シェイクスピアの音楽』(フィリップスPHCP11202)  
\* 今回の演奏会の根幹をなすプログラム。“予習”に最適! ボーナスCDには日本盤で発売されていない彼らの他のCDのききどころが収められています。  
『ナツメグとジンジャー』(フィリップスUCCP1058)  
\* 来日記念・最新盤!

## 今夏のプロムナード・スペシャル企画はフルート・デュオとバケツ怪人“バコーン”だ!!

7/27(土)プロムナード・コンサート ヴァリエーションズ - 2  
8/10(土)プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル企画

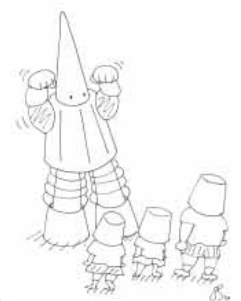
エントランスホールで開催しているプロムナード・コンサート。この夏のスペシャル企画2本をご紹介します。

まず、最初は、オルガン以外の楽器が登場するヴァリエーションズ 公演の第2回目。昨年の「茨城の名手・名歌手たち 第12回」にも出演した、フルート・デュオのル・メユール(フルート:不二原輝子、今久枝ノビアノ:加納麻衣子)が登場します。優美なフルートの繊細なアンサンブルが、エントランスホールに響き渡ります。

そして、8月の夏休みスペシャルは、現代美術センターの「カフェ・イン・水戸」展開連企画である、獅子倉シンジ[水戸バケツ キッズ]パフォーマンス。水戸の小学生がバケツ怪人「バコーン」を退

治するパフォーマンスに合わせて、オルガン演奏が繰り広げられます。オルガン演奏は、5月のスペシャルでディズニー・メドレーなどをはじけるように演奏してくれた山口綾規が再び登場!

ご家族そろって、お越しください。《中村》



これが“バコーン”だ!  
(イラスト:獅子倉シンジ)



写真左;パブロ・カルテット  
右;加藤直子

## Portrait

## Portrait

### 気の合う仲間が集まって、現代の作品に挑む。

7/6(土)パブロ・カルテット

パブロ・カルテットの結成は1994年。第1ヴァイオリンでカルテットのまとめ役でもある小澤真智子さんは「キャラクターが若々しい、元気なカルテットにしたい。そして、演奏会のためには、リハーサルに多くの時間を費やすことが必要なだけに、本当に気の合う人達を集めたかった。」と語る。メンバーは皆、当時東京芸術大学に籍を置く同期生。96年に、芸大の室内楽オーディションに合格し、津田ホールでの芸大定期演奏会への出演を皮切りに、ルーテル市ヶ谷センターでの単独コンサートなどを開催する。その後、留学など、メンバーそれぞれの活動のために、パブロ・カルテットは一時休止状態に入る。そして、今回、6年ぶりに4人のメンバーは再会し、演奏会を行う。

メンバー個々の横顔を紹介してみよう。第1ヴァイオリンの小澤真智子さんは、タップダンスなど様々なことに果敢にチャレンジするエネルギーな人、というのがメンバーの評。芸大卒業後は、ロンドンのギルドホール音楽院、ニューヨークの

ジュリアード音楽院で研鑽を積み、今春、カーネギーホールと東京文化会館でリサイタルを開催するなど、まさに今売り出し中のヴァイオリニストである。一見おとなしそうであるが、メンバーの中で最も濃厚で激しい音楽表現をするというのが第2ヴァイオリンの平田文さん。芸大卒業後は、チューリヒのヴィンタートゥール音楽院で3年間学んだ後、帰国。以来、トッパンホールでのデビュー・コンサートをはじめ、各地で演奏活動を展開している。ヴィオラの番場かおりさんは、見た感じスレンダーでクールな印象を受けるが、実はメンバー中、いちばん「翔んでいる」(超越的な)面を持っているらしい。現在は、スタジオ・ミュージシャンとして多くのCD録音に関わったり、自然保護を訴えるチャリティ・コンサート「SEEDS PROJECT」を発足させ、その企画運営などの活動などを行っている。チェロは水戸出身の城戸春子さん。一昨年は、水戸芸術館でヴァイオリニストであるお母様の範子さんとデュオ・リサイタルを開催して、その実

力のほどを披露してくれた。メンバーによれば、底抜けに明るいキャラクターだそうだ。今秋からフランスへの留学を予定しているとのこと。

彼らが選んだプログラムは、伝統的な弦楽四重奏曲の枠も、洋の東西も超えた、同時代の刺激的で斬新な音響の作品が集められている。現代アルゼンチン・タンゴの代名詞でもあり、世界中を熱狂させたピアソラの作品、アゼルバイジャンの伝統音楽ムガムをベースにした神秘的なアリーザデー作品、ユダヤの最も神聖な祭日の幕開けに奏される音楽を題材とした美しく瞑想的なゾーン作品、そして、ドビュッシーを震撼させ、来るべき名声への足がかりとなった若きラヴェルの作品。

パブロ・カルテットの瑞々しい感性は、世界のあらゆる音楽が流れ込んだともいえる、こうした現代の作品群に、どのような光を照射しようとしているのか? 彼らの演奏をどうぞお楽しみください。

《中村》

### 水戸芸術館から若きヴァイオリニストが羽ばたきます。

7/21(日)加藤直子 ヴァイオリン・リサイタル

1990-91年、水戸芸術館の開館と同時に始まった安永徹氏による公開セミナーの受講者の中に、当時まだあどけない顔の小学生だった加藤直子さんの姿があった。それから11年、加藤さんはたゆまぬ研鑽を積み、そして、遂に水戸芸術館でのソロ・リサイタルが実現する。

加藤さんがヴァイオリンと出会ったのは4歳のとき。チェロが趣味のお母様に連れられて、オーケストラの演奏会へ行き、コンサートマスターのヴァイオリンの音の美しさに惹きつけられたのがきっかけだそう。その後、7歳のときにお父様のお仕事の関係でドイツに渡る。音楽の伝統をもつこの地での生活は、加藤さんの大きな財産となった。10歳のときに日本に帰国し、水戸芸術館での安永徹氏の公開レッスンに参加する。「安永さんの演奏を聴いて、音がとても綺麗で、それにショックを受けました。それ以来、自分の出している音に責任を持たなくては行けないと思いました。」と彼

女は語る。中学2年の時には、現在もお師事している小林健次氏と出会う。「人間的にも演奏家としても尊敬しています。生徒のやりたいことを尊重し、一緒に応援して下さる先生です。」

ところで、加藤さんは、日本とドイツの音楽教育を比較して、日本では、演奏技術(左手のテクニク)の習得が先行するのに対し、ドイツではそれ以上に音楽性や音色というものが大切にされていると指摘する。「たとえば新しい曲を練習する時、日本の友人たちは、ある程度譜読みをしてひと通り弾きこなせるようになってから、どう表現するかということを考え始めるのですが、私は譜読みの段階で、あしたい、こうしたい、と考えながら曲を仕上げていくようにしています。」とのことだ。加藤さんにとって、ヴァイオリンは自らを表現するかけがえのない存在となっていった。

今回初めてとなるソロ・リサイタルのプログラムは、「多くを学ぶことができるソナタ作品を中心に」

構成されている。モーツァルトの明るく優美な「作品1」の第1番、深遠で荘厳さと激しさをもつ八短調で書かれたベートーヴェン作品、典雅な情趣を湛えたプロコフィエフ作品、高度な技術を要する名曲であるパッジニ作品。曲想も作曲された時代も多様な今回のプログラムを、「いかに弾き分けていくか、自分への挑戦でもある」と、加藤さんは語っている。また、共演者の河地恵理子さんについては、「高校時代から一緒にやっている、お互いの呼吸を知り合った間柄で、その柔らかいピアノの音色が自身の音色ととても合うピアニスト」であるそうだ。

加藤直子さんの演奏家としての本格的なキャリアが、ここ水戸芸術館から始まるようとしている。その大きな羽ばたきを祝福しつつ、その演奏には是非耳を傾けてみてください。《中村》

## 最近の公演から

MAY



1



2



3



4



5



6



7



8

アンジェラ・ヒューイット ピアノ・リサイタル  
(5月12日)

アンジェラ・ヒューイット、ただ1回の来日リサイタル。定評あるバッハもさることながら、ラヴェルがたいへんな名演。「自分の音楽は解釈するのではなく、ただ演奏してほしい」と言ったラヴェルの言葉が創造的に達成されていました。クーブランも、その音楽に眠る近代性が明らかにされ、今後の取り組みが注目されます。アンコールはラヴェル 亡き王女のためのパヴァーヌ およびバッハ フランス組曲第5番 からジグ。終演後のサイン会は大盛況、CD売上は芸術館史上最高記録! なおこの演奏会、5月16日付け読売新聞夕刊の演奏会評(安田和信氏)において絶賛されました。雑誌『レコード芸術』『音楽の友』にもインタビュー掲載予定。《矢沢》アンケートから 彼女は手が優雅だ。歩き方が堂々としている所他にないピアニスト(横浜市:K.H.さん) すらっとのびたうでと細いゆびでとてもきちんと、ていねいにしかし機械的でなく(中略)どんな音も気持ちよく耳に入ってきました(高萩市:A.T.さん) 演奏もすばらしかったです、スタインウェイのピアノの音色がとてもやわらかく、美しく感じました。(東京都:Y.W.さん) \*鋭い! 今回は調律の大家をお呼びして、ピアノを徹底的にチューン・アップ。他にも「いつもとピアノの音が違う!」というご指摘あり。

茨城演奏家連盟会員による

アーリー・サマーコンサート(5月17日)

この日、外はあいにくの雨模様。しかし、コンサートホールの中は、ひと足先に初夏を迎えたような演奏者の熱気に溢れていました。今回出演したのは、綿引陽子さん、谷田部ひさみさん、兼氏規雄さん、長松谷幸生さん、関口桂代さん、星子知美さん、杉田せつ子さん、石川真佐江さん、山本徹さんの9人。普段はそれぞれの場で演奏活動を行なっている彼らも、ひとつのコンサートに集まると、すぐに意気投合。ソプラノとピアノのソロ、そして色々な編成による室内楽で、モーツァルト、シューマン、ミヨー、シューベルト、ブラームスと、多彩に広がるプログラムを展開しました。最後は全員揃ってカーテンコール。その姿は、連盟会長佐藤篤さんが語っていた「演奏家としての誇り」を共有しあい、確認しあっているようにも見えました。《松田》アンケートから 普段こういうコンサートに来ることがないので、皆さんの高い技術にただただおどろき。素敵な夜をありがとう。(ひたちなか市:T.F.さん) いろいろな楽器、声楽を混ぜえ、楽しませていた

だきました。(日立市:無記名の方) 本当に元気になれてしまいました。来てよかったです。ありがとうございました。(水戸市:A.I.さん)

ヴァーグナーの祭典

オペラの花束をあなたへ14(5月19日)

畑中良輔企画の人気シリーズの第14回目。今回は、当シリーズ初登場となるドイツのオペラ作曲家リヒャルト・ヴァーグナーを特集した。小濱妙美(ソプラノ)、田中誠(テノール)、大島幾雄(バリトン)がヴァーグナー独特の官能的旋律を堂々と歌い上げたほか、茨城県合唱連盟が濃厚な合唱曲の数々を熱演。また、ピアノの生田美子が編曲したピアノ2台、オルガン、ハープによる伴奏部も、歌と見事に絡み合せて、演奏を大きく盛り上げていた。《関根》アンケートから さすがに「生ヴァーグナー!」としか言いようがなく、すばらしかったです。特に小濱妙美さん、4人のアリアを歌ったというより、4人の女性になりきったという感じで印象的でした。このような大きな世界が、合唱団の方々など市民参加で行われたこともすばらしいと思います。(新治郡:I.T.さん) 実はヴァーグナーのオペラはむずかしいと思ひこんでおりましたが、精神性の高いこと、そして構想の壮大なことに段々と引き込まれていきました。(水戸市:C.T.さん) 畑中氏のていねいな解説と上手な歌手たち、そして指揮とピタリとあったピアノの音色もすばらしかったです。合唱もブラボーでした。(R.T.さん)

中村 創 ギター・リサイタル(5月26日)

芸術館史上の最年少ソロ・リサイタル! 20歳の中村 創さん、堂々のデビューです。ソル、ディアベッリの古典作品では、たしかな様式感を。後半のアサド、プロウエルでは至難な技巧に挑戦しつつ豊かな民俗色を。そしてバリオスでは、「ギターのショパン」というべき繊細なロマンティズムを。それぞれの作品のキャラクターを存分に発揮させた、みごとな内容でした。水戸から、水戸芸術館から飛び立つ若き音楽家に、大きな応援の拍手を! アンコールはコストリゾンの泉。《矢沢》アンケートから 静寂な空気を支配しているようなみごとな演奏でした(ひたちなか市:E.H.さん) 素晴らしかった。心地良かった。中学校以来なのでなつかしかった(水戸市:N.A.さん) アクアレリよかったです(所沢市:F.H.さん) バリオスのワルツが特に気に入りました(水戸市:Y.O.さん) 創さんの、繊細で優しい音がとても素敵でした。これからの世界的な活動に期待しています(厚木市:H.N.さん)

1~2.アンジェラ・ヒューイット ピアノ・リサイタル 3~4.茨城演奏家連盟会員によるアーリー・サマー・コンサート  
5~6.オペラの花束をあなたへ 14 7~8.中村 創 ギター・リサイタル



\*nettama=ネットワークする猫、タマ。  
 芸術館のコンサートをサカナに  
 いるんなところへnettamaします。  
 Web上の「ネットタマネット」もご覧下さい  
 (左記URL)。

もうひとつの自伝 タイユフェール回想録

他のさまざまな表現のジャンル同様、音楽の世界においても、かつて使われていた「女流」や「女性」という枕詞はもう死語にしていだらう。芸術館に登場するアーティストの方々の顔ぶれを見ても、それはわかる。5月にはヒューイットさんがすばらしいピアノを聴かせてくれた。7月には、女性4人による弦楽四重奏団、パブロ・カルテットが登場する。また、かつて子供のころ安永徹ヴァイオリン・クリニックを受講したこともある加藤直子さんがリサイタルを行う。水戸室内管弦楽団のメンバーとはいえば、ヴァイオリン・パートのほとんどが女性。そういままることわりを入れるまでもなく、音楽においてもふたつの性はそれぞれの個性を持ちながら同等にかけがえのない存在だ(いまだに女性団員を認めないオーケストラもあるし、女性の指揮者はまだ相対的には少数だけれど)。

しかし、歴史をさかのぼると、必ずしもそうではなかったことがすぐわかる。たとえば昔の女性の作曲家を何人僕たちは思い出せるだろうか? ヒルデガルト・フォン・ビンゲン、パルピラ・ストロツツィ、ジャケ・ド・ラ・ゲール、ファニー・メンデルスゾーン、セシル・シャミナード、アンリエット・ルニエ...うーん、まだまだたくさんいるとは思っただけれど、「モーツァルト」や「ベートーヴェン」といった誰でも知っている名前が出てこないのはなぜか。間違っても「男性の頭脳の方が作曲に向いているから」なんていう暴論に与したくない。そういう意見を言う人は、田中カレン、藤家溪子、グバイドゥーリナ等々、すぐれた女性の作曲家が続々登場している事実をどう説明するのだろうか? さらにポピュラー音楽においては? ケイト・ブッシュ、パティ・スミス、マドンナ、ピョーク、アラニス・モリセット、矢野顕子、椎名林檎...

すごいソングライター / ミュージシャンはいくらでもいる。こう考えると、かつて社会が(今でも?)女性の表現に対して抑圧的だったということに最大の要因があるのだろうな、と思わざるを得ない。精神に闇を抱えた夫とたくさんの子供をかかえて苦闘したクララ・シューマンや、夫によって作曲を禁じられたアルマ・マラーの悲劇など、その抑圧の歴史を端的に物語るエピソードだ。

『ちょっと辛口 タイユフェール回想録』(小林緑訳、春秋社)という本を読んだ。ジェルメーヌ・タイユフェール(1892 - 1983) 20世紀をほとんどまるまる生きた「女性」作曲家だ。彼女の曲は必ずしもメジャーではないけれど(ピアノ協奏曲やハープ・ソナタ、カンタータ、ナルシス等々が代表作)プーランク、ミヨー、オネゲルらと同じ「6人組」の一人といえれば思い当たる人も多だろう。彼女が自らの人生をふりかえったこの回想録、一気に読んでしまった。

まず、20世紀前半のパリを中心とした彼女と芸術家たちとの交流が面白い。ストラヴィンスキーと「春の祭典」をピアノ・デュオで演奏し、ティボーに恋し、ピカソに励まされ、ヴァレリーとカンタータを共同製作し、フリッツ・ラングの映画『メトロポリス』に驚き、チャップリンと親しくなり...。そんな華麗な交友関係の一方で、むしろ「名士」である自分にとまどい、はにかんでいるひとりのつましい女性の姿が浮かび上がってくる。彼女はくりかえし回想録の中で語るのだ、内気な自分は社交界に耐えられない、自分の音楽的な能力に自信がないと...

そして胸が痛むのは、彼女もまた男たちからの抑圧に耐えねばならなかった、ということだ。父は芸術に理解を示さず、こっさり音楽を学ぼうとするジェルメーヌをかばう母を暴力的に攻

撃し続けた。ジェルメーヌの2度の結婚は、いずれも不幸な結果に終わった。どちらの夫も、「高名なタイユフェール夫人の夫」でいることに我慢がならず、病的な嫉妬で彼女をずたずたに引き裂いたのだ。「その修羅場は、けなげな母を襲いたい、いいは彼女が失神するまで続いた」「想像を絶する暴力地獄の中で私は涙にくれながら働いた」...詳しくは書かれないもののこういう文章が彼女(たち)の苦難の大きさを物語り、男の一人である僕はやりきれなくつらい気持ちになる。いったいこの誰に、表現への押さえがたい意欲を抑圧し、けちをつけ引きずり下ろす権利があるというのだろう!

それでも、たくさんの男性が彼女を励まし、暖かい友情で包んだことはせめてもの救いだ。最後にピカソが彼女にあてたこんな言葉を引用したい。「ジェルメーヌ、毎朝、すてきなジェルメーヌ・タイユフェールでありますように。いつもの自分ではなく、常にゼロから始めること。それがあなたを新しくするただ一つの手段だよ。そうしなければ、自分の「やり方」だけで終わってしまうよ。それに囚われたりして、ね。そんなものはみんな飽きてしまうものだよ」



先月もお伝えした水戸室内管弦楽団(MCO)の新刊、正式タイトル決定。『吉田秀和・小澤征爾 理想の室内オーケストラとは! 水戸室内管弦楽団の実験と成就』(構成・編 諸石幸生)このvivoがお手許に届く頃にはコントロールボタンに並んでいるはず。音楽之友社・刊。

企画運営委員・池辺晋一郎の新刊『モーツァルトの音符たち 池辺晋一郎の「新モーツァルト考」』好評発売中。前著『バッハの音符たち』同様、軽妙な語り口とわかりやすいアナリーゼが冴え渡ります。音楽之友社・刊。

ATMアンサンブルメンバー、小林美恵の最新CD、デンオンから発



売中。『ブレイズ・クライスラー 2』(COCQ-83593) おもちゃの兵隊の行進曲 などの知られざる作品も収録。

大画面の映像と音楽部門・関根哲也のまるやかな語り口で人気の「水戸芸術館友の会LD鑑賞会」第10回は初のロシア・オペラ、ムーソルグスキイ『ボリス・ゴドゥノフ』です。今や大人気のゲルギエフ率いるキーロフ歌劇場のド迫力の演奏と映画監督タルコフスキーの演出、これは見逃せませぬ! 7月13日(土)13:30-18:00水戸芸術館会議場にて。友の会会員限定企画なのでお問い合わせは水戸芸術館友の会事務局(TEL029-227-8111)まで。

## information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029 - 231 - 8000  
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029 - 227 - 8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

【アートタワー通信】第1・第3週に1度、新しいばらき新聞に登場。

### チケット・インフォメーション

7月6日(土)発売分

小さな聴き手たちへ お話しピアノ ピーターとおおかみ

9/28(土)14:00開演 料金(全席自由):大人¥2,500 小・中・高生 ¥1,000

バーバラ・ボニー ソプラノ・リサイタル

10/14(月)14:00開演

料金(全席指定):A席¥6,000 B席¥4,500 P席(ステージ後方) ¥3,000

マリー・クレール・アラン オルガン・リサイタル

10/28(月)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500

7月14日(日)発売分

茨城の名手・名歌手たち 第13回

9/29(日)17:00開演 料金(全席自由):¥1,500

畑中良輔の 日本のおうた セミナー 第2期

9/14(土)14:00開始、12/7(土)14:00開始、2003年3/15(土)14:00開始 料金(全席自由):1日券¥1,500 第2期通し券¥3,600

野村 誠&箏衛門コンサート

10/20(日)14:00開演 料金(全席自由):大人¥1,000 小・中・高生 ¥500

7月17日(水)発売分

水戸芸術館友の会結成10周年プレ企画事業

宮本文昭 オーボエ・リサイタル

10/5(土)18:30開演 料金(全席指定):友の会会員¥2,500 一般 ¥3,500

宮本文昭 オーボエ・リサイタルには、7月13日(土)より友の会の先行電話予約があります。

### これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

パブロ・カルテット

7/6(土) ...自由席

グローブ座の音楽家たち シェイクスピアの音楽

7/12(金) ...1F・2F、3F正面、3F舞台後方、ペアチケット

加藤直子 ヴァイオリン・リサイタル

7/21(日) ...自由席

矢部昌子 ピアノ・リサイタル

9/8(日) ...自由席

ミト・デラルコ 第5回演奏会

10/12(土) ...中央x、左右・裏

6/16(日)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館7・8月のスケジュール

### コンサートホールATM

パブロ・カルテット 7/6(土)18:30 料金(全席自由):¥3,000

第35回水戸市芸術祭 少年少女合唱祭 7/14(日)14:00 入場無料

加藤直子 ヴァイオリン・リサイタル

7/21(日)14:00 料金(全席自由):¥2,500

第35回水戸市芸術祭 市民音楽会

7/27(土)18:00、7/28(日)13:00 入場無料

第35回水戸市芸術祭 ジュニアオーケストラ演奏会

8/18(日)14:00 料金(全席自由):前売¥800 当日¥1,000

### エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート 7/7(日)12:00/13:30 7/13(土)13:30/15:00 8/4(日)12:00/13:30 8/17(土)13:30/15:00

宴や夜市(泉町商店会)関連企画 7/26(金)18:00 8/23(金)18:00

ヴァリエーションズ 7/27(土)13:30/15:00 ル・メユール

夏休みスペシャル企画 8/10(土)15:00 「カフェ・イン・水戸」展 関連企画

獅子倉シンジ 水戸バケツ キッズパフォーマンス オルガン:山口綾規 入場無料 演奏は各回20分程度です。

エントランスで踊ってみる15[SWAN LAKE] 7/14(日)17:00 入場無料

### ACM劇場

瀬戸内寂聴 現代語訳による 白石加代子の「源氏物語」その第一夜「六条御息所」 7/7(日)18:00 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥2,500

グローブ座の音楽家たち シェイクスピアの音楽 7/12(金)19:00 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000 C席¥2,000

ACMリーディング・シアター決定版『マクベス』 7/19(金)19:00、7/20(土)19:00、7/21(日)14:00 料金(全席自由):¥1,000

第35回水戸市芸術祭 バレエフェスティバル

7/31(水)14:00 料金(全席自由):¥500

こまつ座 第66回公演 新作『太鼓たたいて笛ふいて』

8/10(土)19:00、8/11(日)14:00 7/7(日)チケット発売 料金(全席指定):A席¥6,000 B席¥3,000

第35回水戸市芸術祭 市民演劇祭 8/16(金)19:00 劇団 撫で肩ミサイル、8/17(土)19:00 演劇事務所 99、8/18(日)19:00 脱高校演劇集団[くさぶえ]、8/23(金)19:00 茨城大学演劇研究会、8/24(土)19:00 オフィス・トゥー・ハッターリー、8/25(日)19:00 舞踊劇団「創」(生まれる) 料金等詳細につきましてはお問い合わせ下さい。TEL/029(227)8111(代)

### 現代美術センター

第35回水戸市芸術祭 美術展覧会

[第1期]日本画・洋画・彫刻・工芸美術

6/30(日)~7/12(金)9:30~18:00(入場は17:30まで)月曜休館 入場無料

[第2期]書・写真・デザイン・インスタレーション

7/17(水)~7/28(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)月曜休館 入場無料

カフェ・イン・水戸 CAFE in Mito(Communicable Action for Every -

body) 8/10(土)~9/23(月)9:30~18:00(入場は17:30まで)月曜休館

入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、心身障害者の方は無料

## 茨城の主な7・8月の演奏会

佐川文庫 TEL/029(309)5020 佐川文庫リサイタルシリーズ-若きピアニストたち~ リサ・ユイ ピアノ・コンサート7/6(土)18:00

常陽藝文センター TEL/029(231)6611 日中国交正常化30周年記念 馬高彦胡弓コンサート 7/6(土)14:00 (問)茨城県日中友好協会 TEL/029(224)1169

茨城県民文化センター TEL/029(241)1166 ウラジミル・ミシュク ロマンティック・ピアノ 7/4(木)18:30

ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122 溝口 肇 コンサート2002 7/6(土)18:00 アルベルト ライブ2002 8/29(木)18:30

日立シビックセンター TEL/0294(24)7711 エミリー&キャサリン姉妹フルートとハーブの競演 7/6(土)18:30 ケルト音楽紀行II アルタンwithダン・ステイシー 8/30(金)18:30

鹿島勤労文化会館 TEL/0299(83)5911 ウラジミル・ミシュク ロマンティック・ピアノ 7/5(金)18:30

龍ヶ崎市文化会館 TEL/0297(64)1411 ウラジミル・ミシュク ロマンティック・ピアノ 7/14(日)14:00

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2002年7月発行 第83号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵

松田善幸 矢沢孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は ピーターとおおかみ + 狂言=?? ほか